

小田原市

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

これまでの教育実践をもとに、ICT 機器を学習に欠かせない「道具」として有効に活用し、学び続けようとする意欲や豊かな創造性、様々な人と協働しながら課題を解決する力などの育成を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

「小田原市 ICT を活用した教育の推進計画」にて、ステップ0～3の目標を掲げ、ICT 活用の推進に取り組んだ。

ステップ0「学習ネットワークを活用する準備ができている」

ステップ1「ICT を活用した授業ができる」

ステップ2「子ども同士の学び合いに ICT を活用し、各教科の学びを深めることができる」

ステップ3「ICT 活用の中心的教員：個別最適な学びを具現化した授業ができる

全教員：個別最適な学びのイメージをもち、研究・研鑽をしていく」

各学校に行ったアンケートによると、7割近くの教員が共同編集ツールや学習成果物の作成・提出、学習履歴の蓄積といった、場面ごとの活用が進んでいると回答している。

しかし、教員間によって活用の差があるなど、児童生徒が主体となるような授業づくりにおける活用については課題があることも認識している。

教員間の活用の差、児童生徒が主体となる授業づくりについては、ICT 活用研修会を実施し、活用事例等を市内の小中学校へ広めている。

また、令和6年度は小中4校で授業計画作成に特化したICT 支援員の訪問を実施し、年間・単元計画内にICT 活用の場面を位置付ける取組を行っている。

3. 1人1台端末の利活用方策

ICT を活用した教育を推進するために、デジタル教科書の活用、Google アプリケーションの活用における教員向け研修会を実施し、授業の在り方を再構築し、児童生徒が主体となる学びの実現を目指す。また、ICT 支援員による、授業、教材作成のサポートを中心に教員の ICT を活用した授業力の向上を図る。

児童生徒一人あたりの端末稼働時間をダッシュボードにより出力し、各校へ情報提供を行うことで、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、教員による指導改善と児童生徒の学習改善を促進する。

個別に指導・対応が必要な児童生徒に対しては、デジタルドリルや動画、授業配信の視聴による支援を継続して行う。